

平成29年11月30日

自由民主党 絆

代表 古嶋 津義 様

八代市議会自由民主党 絆
管外行政視察復命書

視 察 期 日 : H29.11.7 (火) ~ H29.11.9 (木)

2 班

視 察 先 : 江戸川区 (東京都)
政府陳情 (東京都)
川越市 (埼玉県)

参 加 者 : 議 員 上村 哲三



議 員 金子 昌平



議 員 古嶋 津義



議 員 百田 隆



調査事項 H29 年 11 月 7 日(火)

◎子どもの成長を支える江戸川区の取り組みについて

1. 取り組みの特色

- (1) 江戸川区は、年間約 6,000 人の子どもが生まれ、合計特殊出生率も 23 区の中でトップクラスであるなど、豊かな自然環境や子育てを支える地域の力を背景に、子育て環境について内外から高い評価を受けている。しかし複雑化する社会経済状況に伴い、子育てに悩む保護者、また、そうした状況に左右され、苦しい環境に置かれた子どもたちの存在があることも事実であった。
- (2) 区が把握する、児童虐待等通報件数や児童扶養手当受給者の就業状況、就学援助率、全国学力・学習状況調査の結果などを分析するとともに、いわゆる「子供の貧困」をはじめ、子どもや子育て世帯が抱える課題について、地域の関係者や区職員が日々見聞きする実態、また過去に直面した事例を把握するため、約 1,500 人の協力を得て調査を行った。
- (3) 調査の結果から、学習支援が必要な子どもの存在が明らかになった為、子どもの将来に直結する「学習支援」に取り組み、全生・中学校で行う補習教室をはじめ、中高生誰もが参加できる学習支援、ひとり親家庭を対象にした塾型・家庭教師型の学習支援など、全庁をあげてニーズに合わせた取り組みを展開しており、勉強を教えるのは、大学生や社会人のボランティアである。
 - ①江戸川さくら塾（マンツーマンを基本とした個人指導）
 - ②えどさく先生（家庭教師派遣型）
- (4) 更に踏み込んだ調査結果からは、子どもの成長に欠かせない「食」についても深刻な実態が明らかになった。既に情熱的な地域の方が「子ども食堂」を立ち上げ運営していたが、「他にも食に困っている子どもたちがいるのではないか？」など心配する声が多かった為、行政は課題解決策として「アウトリーチ型」の 2 つの食の支援事業を開始した。
 - ① おうち食堂（食事支援ボランティア派遣事業）
 - ・ 有償ボランティアやシルバー人材センター会員が自宅訪問により食事作りを提供。
 - ② KODOMO ごはん便（子ども配食サービス事業）
 - ・ 区内の仕出し弁当組合の協力のもと、弁当の宅配サービス。

2. 取り組みに対する市民の反応

- (1) 学習支援事業に参加した子供達からは、勉強の楽しさと将来の夢を語る姿が見られた。そして保護者からは、子の成長を実感する声が多く寄せられ、また、高校を受験した120名余の生徒の大半が合格を果たし、今は、自らの力で道を切り開いた自信と将来を胸に、充実した高校生活を送っている。
- (2) 「おうち食堂」の支援が始まった家庭からは、「子どもたちが楽しそうに料理を手伝ったり、美味しそうに食べて嬉しい。本当に助かります」、子供からは「ソースをかけなくても野菜の味が美味しい。次は揚げたての天ぷらを食べたい」など食を通じて子供たちとの会話が弾むようになったとの声が多い。

3. 現状における課題

・現状と課題の分析に基づく「施策の充実・再構築」

- ① 子どもや子育て世代の置かれた現状を把握するため、区職員や地域の関係者を対象に実態把握調査を行う。
 - ② その実態から表れる課題や行政需要を浮かび上がらせ、区の施策とてらしあわせて不足がないか検証する。
 - ③ 上記プロセスを経て、「施策の拡充・再構築」に向けた検討を行い、実行に移す。
 - ④ 新規・拡充した施策及び、他の施策が効果的に機能しているか検証する。
- ※①から④をサイクルとして定期的に行い施策の充実を図る。

・「子ども家庭支援センター」を中心とする支援体制の構築

支援の中心は「子ども支援センター」が担うものとして体制の強化を図り、各施策を充実するだけでなく、その効果を検証し、更なる再構築に繋げていく。

4. 今後の取り組み

子どもの成長支援（「貧困対策」含む）と体制の構築

(1) 学習支援事業・食事の提供

小学生から高校生まで、幅広い世代を対象とした学習支援事業を行う。これまで、ひとり親家庭に特化した学習支援は行なっていなかったが、新たに事業を構築し、家庭全般にわたるアウトリーチ型支援を充実させる。「包括支援ケアシステムの拠点」では、フードバンクを活用した食事の提供も行う。

(2) 子供の家庭支援センターの体制強化

子供家庭センターは、子育てや家庭について相談支援窓口として、また、虐待ケースへの対応策期間としての機能も果たしている。今後これらに加え、様々に寄せられる課題を整理し、各支援事業や区の関連部署、関連機関につなぐとともに、継続的なフォローを行うため体制を強化する。

(3) スクールソーシャルワーカーの配置

児童・生徒を取り巻く環境要因に直接働きかけ、健全育成の推進強化を図るため、社会福祉士や精神保健福祉等の資格を有するスクールソーシャルワーカーを2名配置する。

(4) 区内連絡体制の構築

区の施策の現状や課題、または新たな対応の検討、更には全体調整を行う体制とし、「(仮称)江戸川区子どもの成長支援・区内連絡会」を立ち上げる。江戸川区副区長を座長とし、教育長と関係部長で構成する。併せて、連絡会の中に現場職員を中心とする実務者会議を設け、子ども家庭支援センターとの情報交換や課題整理等を行なう。

妊娠・出産・子育て支援を通じた切れ目のない支援

(1) 妊婦全数面接

妊娠届時に、保健師等との面談により、相談対応やサービス紹介を行うなど、妊婦・出産・子育て期の切れ目のない支援につなげていく。

(2) 乳児家庭全戸訪問事業(新生児訪問事業・地域子育て見守り事業)

子育て見守り員が、出産後4ヶ月までの乳児のいる家庭を訪問し、育児の不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行う。併せて、親子の心身の状況や教育環境などを把握し、支援が必要な家庭に対しては適切な支援につなげていく。

(3) 産後ケア事業

産後うつ等、心身ともに不安定になりがちな母親に対し、子育て支援への不安感や負担感の軽減を図るため、母子ショートステイ事業を実施し、児童虐待等を未然に防いでいく。

(4) 認証保育保険料負担軽減補助

保育の必要性の認定を受けながら認可保育園に入園できず、認証保育所へ通園している世帯が一定数存在している現状を踏まえ、所得に応じて保育料を補助する。

(5) ひとり親家庭の多様な支援ニーズに対応するため、専門知識を持った相談員による総合相談窓口を設置する。

調査事項 平成 29 年 11 月 8 日 (水)

◎政府要望視察

1. 南九州地域の拠点港湾『八代港』の整備促進について (国際港湾振興課)
2. 球磨川水系治水対策の促進について (企画政策課)
3. 物流対策と都市の防災・安全対策の推進について (都市整備課)
4. 災害に強い地域づくりや広域連携強化に資する交通基盤整備について (企画政策課)
5. 球磨川総合水系環境整備事業等について (企画政策課)
6. 八千把・松高地区 (古閑排水区) における浸水対策の促進について (下水道建設課)
7. 水害の頻発・激甚化に対応する治水対策の促進について (土木課)
8. 地域と守る総合的な土砂災害対策の推進について (建設政策課)
9. 物流対策の推進について (建設政策課)
10. 中央 (雨水) ポンプ場改築事業について (下水道建設課)
11. 八代海北部沿岸地域の堤防・護岸強化について (企画政策課)
12. 熊本県八代地域い産業を守る対策に関することについて (農業整備課)
13. 国営八代平野土地改良事業の早期着工に向けて (農地整備課)
14. 八代平野における農業農村整備事業の推進について (農地整備課)
15. 鳥獣被害防止対策に関する要望について (水産林務課)
16. 全国森林環境税の創設について (水産林務課)
17. 「球磨川河口」のラムサール条約湿地登録に向けた国指定鳥獣保護区の指定について
18. 八代海再生に向けた抜本的対策について (企画政策課)
19. 合併特例事業債に係る発行期限の延長について (財政課)



調査事項 平成 29 年 11 月 9 日 (木)

◎川越まつり会館について

1. 施設の概要および建設に至った経緯

- (1) 川越まつりは、市を代表する伝統文化であり、川越市最大のお祭りである。
- (2) 川越まつり会館の目的は、「市民の川越まつりに関する知識及び教養の向上を図る」とともに、「観光及び商業の活性化」に寄与するために川越一番街商店街を含めた中心市街地活性化の拠点施設として建設された。また、業務の一部を(社)小江川越観光協会に委託している。
- (3) 平成 15 年 9 月 28 日に開館。
建設費は 3 ヶ月継続事業で合計 1,040,660 千円 (基本設計・実施設計・地質調査を含む)。観覧料は、一般個人 300 円(20 人以上の団体 240 円)、小中学生 100 円(20 人以上の団体 80 円)。

2. 会館の特色

- (1) 館内には、川越まつりの雰囲気을いつでも体験できるよう、常時 3 台の山車やまつり会館資料を展示するとともに、大型スクリーンによる臨場感あふれる映像で川越まつりを紹介している。
- (2) 環境および障害者、高齢者等に配慮した施設。太陽光発電 (30KW)・雨水利用 (50t・中水としてトイレ、散水用井戸に利用)・バリアフリーを整備。
- (3) 重要伝統的建造物群保存地区内であったため、建物の高さ、屋根勾配、建物の色、形状の制限を受けて建設された。建物の高さ制限は 11m までであり、山車を展示する為に地下を 1.5m 掘り下げて高さを抑制したほか、壁面に漆喰塗りを施すなど、蔵造りの町並みに溶け込み、周辺環境に適した施設になっている。

3. 入館状況及び市民からの評価

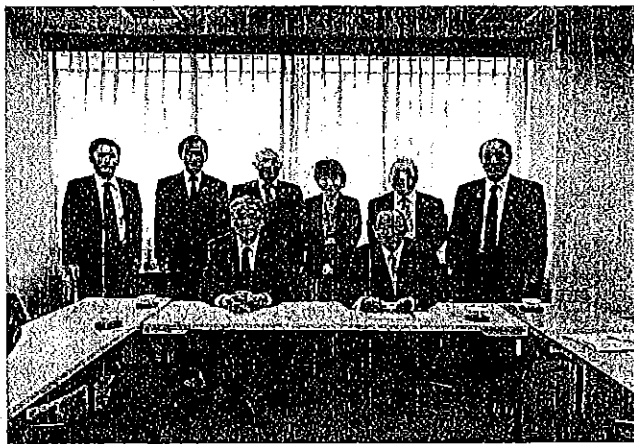
入館者は、開館以来順調に増加しており、2009 年度には 12 万人に達している。2018 年度の入館者のうち、約 75.6%が一般人で、約 4.9%が小中学生の入館者。また、2018 年度の開館日 1 日あたりの入館者は約 286 人であった。

4. 現状における課題

一番街商店街は従来から自動車の往来が多く、交通環境に関する観光客など歩行者の評価は低い。車と歩行者の分離や歩行者天国の導入などが今後の検討課題となる。また、川越市への外国人観光客が急激に増加しており入館者数は期待できるがリピーターを増やす為のイベント企画やアイデアを求められている。

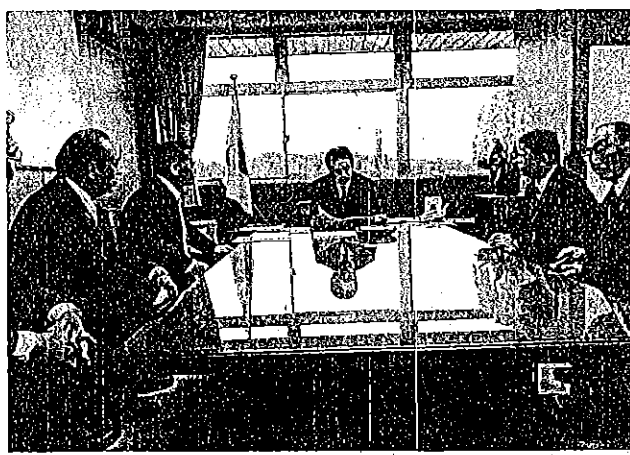
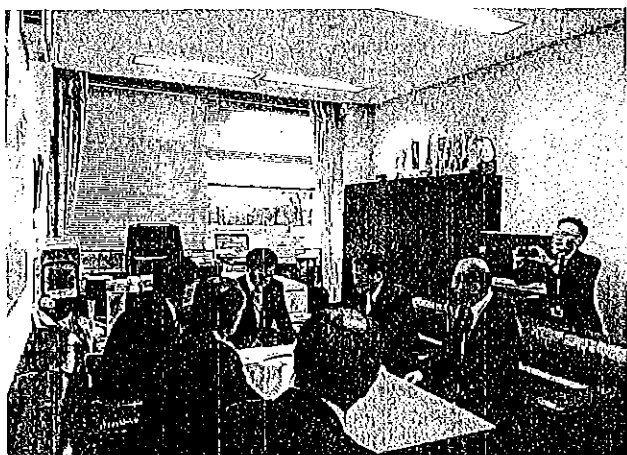
平成 29 年 11 月 7 日 (火)

東京都江戸川区：子どもの成長を支える江戸川区の取り組みについて



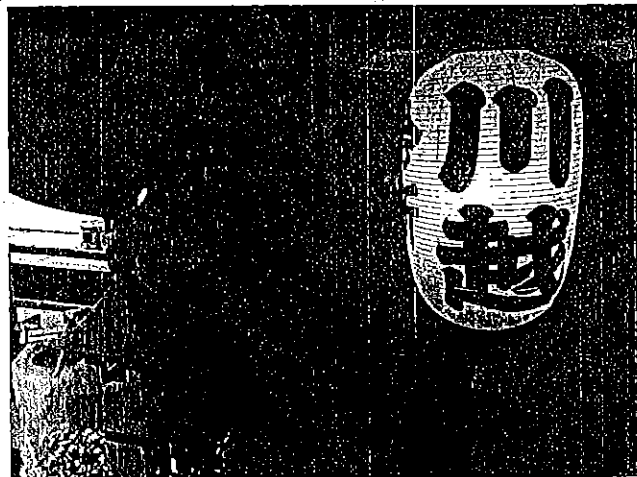
平成 29 年 11 月 8 日 (水)

東京都：政府要望視察



平成 29 年 11 月 9 日 (木)

東京都川越市：川越まつり会館



議員名【上村哲三】

No.1

◆視察日：平成29年11月7日（火）

◆視察先：東京都江戸川区

◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

江戸川区では、社会状況の変化に伴い、「子供の貧困対策に関する大綱」を定め、更にその特長である「地域全体で支え合う仕組みをつくり、実態を踏まえて対応の検討を行なった。全ての子供が、希望あふれる未来像を描ける様に！

〔特筆事項〕

専断施策に入る前の調査（詳細は資料1）

1. 現状基礎調査

2. 実態把握の為の調査

「子供の貧困」をはじめ、子育て世帯が抱える課題について、地域の関係者や専門員が日々見聞する実態等と把握し、状況改善の策を具出す、努力、調査を実施

議員名【上村哲三】

◆視察日：平成29年11月7日（火）

◆視察先：東京都江戸川区

◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

No.2

2. (2) 調査対象は学校・保育園・幼稚園・民生児童委員・保護司等、150人の協力を得て実施。
又、加えて、個々の家庭での聞きとり調査も行ない、個々の現状に応じた施策の構築を目指した。

〔施策について〕（詳細は資料2・3）

1. 学習支援事業

2. 2つの食の支援事業

おうち食堂・ごはん便

〔事業の実施〕

・ ボランティア 13人、有償ボランティア

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

【上村哲三】 No.1

川越市は、中核市・業務核都市にふさわしい
都市機能を集積し、にぎわいのある地域社会
の形成をめざす中、川越駅西口市有地に
おい、市民から求められる多様な機能に対
応して現在整備を進め、「重要伝統的建造
物群保存地区」である蔵造りの町並みや、
江戸・天下衆りを受け継ぐ「川越祭」等、
江戸情緒を残す「小江戸」と呼ばれ、
首都近郊の観光地集客をめざし、
「川越まつり会館」を同地に建設。

1. 建設にあたって

財源として「小江戸かわごえ市民債」
を発行（詳細は資料(1)）

2. 展示について（エネコ文化遺産登録 16年）

山車は29基（高さ11mの大型）

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

〔上村哲三〕 No.2

〔課題〕

1. 文化建造物保護地域にある為制約が多い。

山車は毎年29基出機できない。

後継者の数・出機予算の問題

2. まつり会館の維持管理

年に高額な維持管理費用（一般財源）

が発生している。

ハコ市でも、妙国祭（エネコ祭）を中心

とした、級杯（文化伝承館）の建設から

市民からも要望され、観望市をめぐす

本市にとっては喫緊の課題であるが、①建設

財源、②建設後の維持管理については

慎重な検討が求められる。

議員名【上村哲三】No.3

◆視察日：平成29年11月7日（火）

◆視察先：東京都江戸川区

◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

今回の研修により、様々な施策を実施するにあたっては、その対象の前提に反し、いかに、調査が重要であるか、又施策が、個々の状況に依り、実のある物にする為の努力が重要であることを再認識させられた。

施策の実施にあたり、これはボランティア等のボランティアの供給が、確保しやすい都会であるに反し、本市では、その実で大変困難性があるものと思われる。

一刻も早い同施策への取り組みが求められていると思う。

会派 自由民主党 絆 行政視察所見

議員名 【 金子 昌平 】

- ◆視察日：平成29年11月7日（火）
- ◆視察先：東京都江戸川区
- ◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

近年複雑化した家庭環境により、子どもの7人に1人が相対的貧困の状態にある。背景には、親世代の貧困が子ども世代の貧困を生む、貧困の連鎖である。家庭の経済格差が子どもたちの教育格差を生み、将来の所得格差を生んでいる。子どもの貧困問題を放置すれば、低所得層の拡大を招き、国内市場の縮小や財政収入の減少を招くとされる。そのような状態を踏まえ、江戸川区では、すべての子どもが夢と希望を持って成長できる社会の実現に向け、地域の特色である協働理念を活かし、幅広いニーズに対応した子育て支援に取り組んでおられた。子どもの貧困連鎖を断ち切るため地域包括ケアシステムを拠点に小学生から高校生まできめ細かな学習・食事の支援を実施している。成功した背景には、大学生のボランティアが集まりやすい地域であることや、民間の学習塾との提携が可能であったことなどが考えられる。特に驚いたのは、家庭教師派遣型学習支援とボランティア派遣食事支援などのアウトリーチ型や更に貧困の実態を明らかにし手厚い支援をしていく熱意であった。貧困の連鎖を断ち切るためには各課が持っている子どもに関する情報・実態把握を地域の関係者と職員が共通認識をすることが必要と感じた。本市においても、ひとり親家庭を対象に学習支援を実施しているが、こどもの貧困実態を把握する必要があると思った。意見としては、東京都文京区の「こども宅食」を参考に「返礼品」はダイレクトに子どもたちの笑顔。ふるさと納税の寄付金を財源に義務教育における備品を配布出来ないかと考える。子育て世代が安心して働けることが何よりも重要課題であると思う。

会派 自由民主党 絆 行政視察所見

議員名 【 金子 昌平 】

- ◆視察日：平成29年11月9日（木）
- ◆視察先：埼玉県川越市
- ◆調査項目：川越まつり会館について

川越市は、一番街商店街を含めた中心市街地活性化の拠点施設として、2003 年に「川越まつり会館」を開館した。オープン以来入館者数は増加傾向にある。商店街に近接した施設で観光バス受け入れの駐車場も整備しており、商店街来訪者の増加にも影響を与えている。本市においても観光バスの駐車場確保は課題である為必要に応じて整備する必要があると思う。質疑応答では「リピート率は高いのか？」との問いに対して「如何にしてリピート客を増やせるかは今後の課題です。」との応答であった。会館内には案内係や視覚的に楽しめる器具等はあるが、体験型が少し弱い印象であった。アイデアとしては、「本刀切り」と「い草」を組み合わせた体験型等を伝承館内に盛り込むとリピートに繋がるのではないかと思う。教育の観点からも武士道精神を通して子供達や観光客においても日本でのマナーを含め八代の宝物を教える事は大切な様に思う。近年では外国人観光客とその旅行消費額は大幅に増加しており、海外からのインバウンド需要の取り込みにより中心市街地活性化を図ることは重要だと思う。

議員名【古嶋津義】 No 1

◆視察日：平成29年11月7日（火）

◆視察先：東京都江戸川区

◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

(1) 子どもや子育て世帯を取り巻く現状の事態把握調査を行い取り組みを実施。特色としては、①学習面での課題（教育等）②子どもの日常生活に関する課題（食事、健康、居場所、親放棄、虐待等）現状を踏まえ取り組み実施。①の学習支援事業としては、小学生から高校生まで幅広い世代を対象とした支援が行われている。小学生では、学習支援ボランティア事業（放課後の補習教育）。中学生では、派遣型学習支援、塾型学習支援（児童扶養手当受給世帯で、各家庭や支援センターで実施）。全ての中高生が対象の居場所型学習支援（共育プラザで実施）。又、平成28年度からは、地域包括ケアシステムの拠点、なごみの家（3ヶ所）でフードバンクを活用した食事提供も行っている。「食の支援事業」としては、食事支援ボランティア派遣事業（区の有償ボランティアが、支援が

◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

必要な家庭において、買い物から調理、片付けまで“行
い、年48回を上限に子どもにごはんを提供する制
度。「子ども西食サービス事業（自己負担100円で、年48回
を上限に希望する家庭の児童に直接、べんとうを自宅
まで届ける制度）等。(2) 取り組みに対する市民の反応は、
概ね好評（地域全体で支え合う）。(3) 現状における
課題はボランティアの確保。(4) 今後の取り組みとしては、
「学習面」「学校生活」「食事や身なり」「居場所・生活環境・
生活リズム」「育児放棄」「子育てに対する意識」「就労
と保育」「幼児・小・中・高生」「保護者の金銭管理」
等、子どもの貧困問題に対えるべき範囲は、多岐に
わたっている。

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

〔古嶋津義〕 No.1

◆調査項目：川越まつり会館について

(1) 川越まつりに関する知識等の向上をはかるとともに、観光振興と商業の活性化に寄与するための核施設として、平成14年に建設。鉄筋コンクリート造 3階建、延床面積1,816.24㎡（展示棟・管理棟・山車保管庫・屋外トイレ等）。主な施設として、山車展示スペース、資料展示スペース、視聴覚室、山車保管庫（常時空調で適温湿の保持）。建設費約10億4千万円（補助、約5億、一般財源約2億、川越市発行の市民債3億円）。建設上の留意点として、重要伝統的建造物群保存地区内であったため、建物の高さ（高さ制限11mまでなので、地下を1.5m掘り下げて高さを抑制）他、蔵造りの町並みに溶け込む等、周辺環境に適応した施設。

(2) 会館の特徴としては、川越まつりの雰囲気をもいっしょに体験できるように、常時3台の山車やまつり関係資料を展示。又、臨場感あふれる映像で川越まつりを紹介。施設としては、環境（蔵造り）の町並み及び障害者、高齢者に

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

〔古嶋 津 義〕No.2

配属した施設である。(3) 入館状況は、平成20年
から年間 600万人代を推移、平成28年度は 700万人台
(蔵造りの町並みと一体化)。市民からの反応は、体験
できることや、日曜、祝日に囃子の実演回数が増加の
要望もある？(4) 課題としては、展示物(山車)の入替
えの費用(解体、組立て)年間300万円の維持管理費。町内
会で保存する保管庫 1,000万円～2,000万円(半額補助、上限あり)
の費用負担。又、町内会で祭りに参加するために1回
約300万円(約100万円補助)ぐらい費用がかかり、町内会での
毎年の参加は費用負担がネックとなっている。

議員名【 百田 隆 】

◆視察日：平成29年11月7日（火）

◆視察先：東京都江戸川区

◆調査項目：子どもの成長を支える江戸川区の取り組み

子供の種々の問題は、食困にもとづいて

困っている。子供の食困対策に本腰をあげ、江戸川区

には、食困対策官を置いて取り組むことになった。

江戸川区の食困対策として

1. 学習支援事業... 学校へ行けず、（又は行かない）子供と

一緒に学習の場を提供して、学習塾の手

トライの力を得て、塾、塾の補助金を活用。

2. 食支援事業

満足に食事にあつていない子供に対して、ボランティアの応援

で、一人一人を支援し、食事を提供する。

これらのことを通じて、食困がもたらす影響について、最小限の

影響に止まることを目指している。

本市においては、このような施策は、来年度から実施が今後の課題としておこなわれている。

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

〔百田 隆〕

川越まつりは北の祭に起源をもち、江戸幕府の保護の

もと、今では^{この北}おまつり市に同じく昨年12月1日に2423号建造物

に登録された。又、祭りの山車の保管庫として、関係資料の

展示場^もの。核施設として、川越まつり会館が

平成13年と平成14年に建てられ、建設された。

建設費用として、市^債と、募集（3億円）が主な収入

を占めることになった。

市内の1つとして、市債の発行額の減少が、近年の

民俗伝統芸術伝承館（仮称）が建設予定である。

市債発行の可能性と、候補地のあり方の検討が、

会館自身は、大変、おもしろいと感じている。

観覧客数は、19年度より毎年10万人前後である。

増えている。今年も、建設後の観覧客数も

このように推移していくのか、15%増^増と見込める。

平成30年4月12日

自由民主党 絆

代表 古島 津義 様

八代市議会自由民主党 絆

管外行政視察復命書

視察期日 : H30年3月29日(木)～30日(金)

視 察 先 : 大建工業株式会社(岡山県岡山市)
大和ミュージアム(広島県呉市)

参 加 者 : 議員 古島 津義

議員 百田 隆

議員 金子 昌平



大建工業株式会社（岡山県岡山市）

◎会社概要

- ・設立 昭和20年9月26日
- ・資本金 131億5,003万9,080円
- ・従業員 3,071名
- ・売上高 168,848百万円
- ・主要事業 住空間・エコ・エンジニアリング事業
- ・生産工場 (三重・井波・岡山・高萩) 工場

◎住空間事業（内装建材及び住宅機器等の製造販売）

- ・お客様の暮らしを考えた機能・品質をプラス

（三）いづくりに欠かせない床材や壁材など住宅建材を製造。安全・安心・快適・便利・健康という視点で暮らしや環境にも配慮した住み心地の向上を目指した製品の提供。

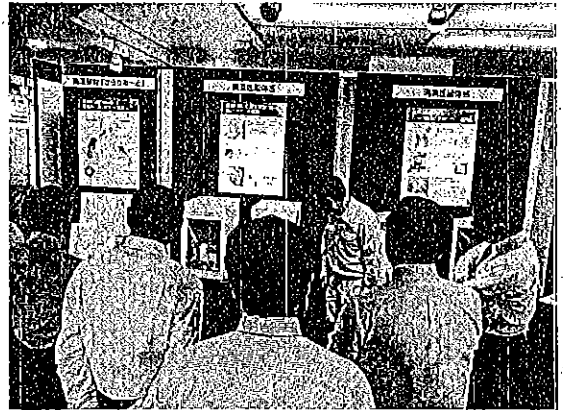
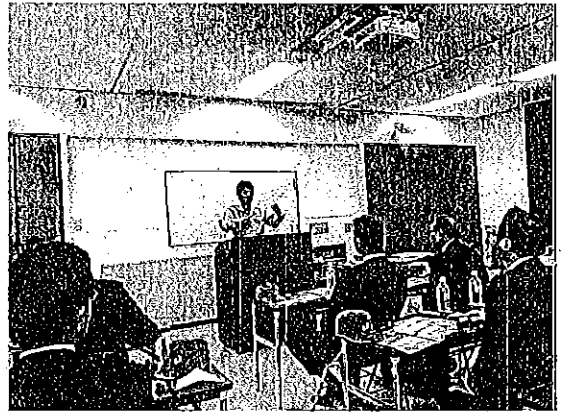
◎エコ事業（畳おもて等のエコ素材の製造）

- ・地球にも人にもやさしいモノづくり体制を確立
- 資源環境型企業のリーディングカンパニーとして、木質資源の有効利用と未利用資源の有効活用を図ったエコ素材の開発・製造に積極的に取り組む。

断熱・吸音・調湿・耐震性などの機能を持たせて製品化することで、地球環境への配慮と暮らしの快適性を両立。

◎エンジニアリング事業

- ・快適な空間づくりをトータルでサポート
- 文教施設などの内装工事や工事部材の生産・仕入れ・販売から、設計・施工のコンサルタント業務など、トータルで空間づくりをサポートする体制の構築。多種多様な工事部材と、その性能を最大限に引き出す専門的なノウハウと技術を活かし、快適な空間の提供。



大和ミュージアム（広島県呉市）

◎概要

戦艦「大和」を建造した軍港で呉市を設立主体とする博物館。戦前・戦後の呉市における船舶製造技術を主たる展示としており、歴史背景を元に造船・製銅など各種の「科学技術」原理を体験・体感出来る様わかりやすく紹介している。

所在地 ・広島県呉市宝町 5-20

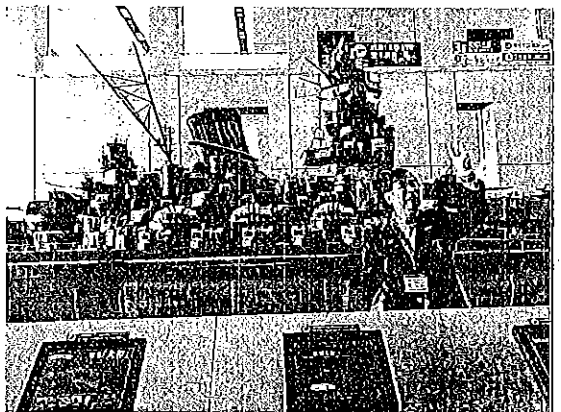
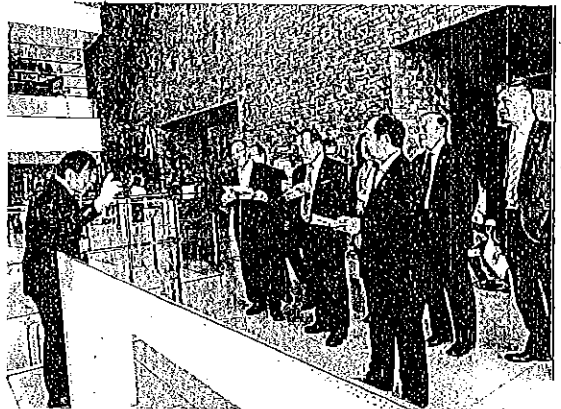
開設日 ・2005年4月23日

開館時間 ・9:00~18:00 休館日 火曜日

入場料 ・一般 500 高校生 300 小中学生 200 円

（イベント ・ワークショップやサイエンスショー

運営 ・2008年~指定管理制度導入により、学芸部門は、呉市商工観光部が管轄し、管理運営・広報については民間会社で構築される「大和ミュージアム運営グループ」が担当している



◎基本方針

- 1 歴史的見地 造船技術等の歴史を後世に伝える
- 2 学術的見地 培ってきた科学技術を新時代に活用
- 3 教育的見地 生涯学習実践のための環境整備
- 4 町づくり的見地 周辺施設と調和し人々の中心施設

◎方向性

- 1 地域と一体となった博物館
- 2 呉の歴史がわかる博物館
- 3 科学技術の素晴らしさ・科学の原理のわかる博物館
- 4 市民の自発的な学習を支援する博物館
- 5 人が集まり情報を受・発信する博物館
- 6 楽しむ場となる博物館

会派 自由民主党 絆 行政視察所見

議員名 【 金子 昌平 】

- ◆視 察 日：平成 30 年 3 月 30 日（金）
- ◆視 察 先：大和ミュージアム（広島県呉市）
- ◆調査項目：大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

初年度来館者は、161 万人。その後、平均 90 万人から 74 万人で安定しており、地方都市の市立博物館という観点から全国的にも異例の存在である。博物館の多くは、建造以降大きな改善やリノベーションは難しく、来館者数も初年度以降は伸び悩むことは多い。大和ミュージアムも初年度に最大の入場者数を集めたことは確かだが、その後も潜水調査など意欲的な取り組みを行い、一度減った入場者数をさらに増やすことに成功している。博物館としての意義はもちろんのこと、集客を狙う観光施設としてもたいへん優れていることがわかる。

呉駅から大和ミュージアムまでは、ゆめタウンを通し直結した徒歩通路が整備されていた。店内の案内表示に従い通り抜けるのが正式ルートで天候に左右されない利点がある。館内入場においては、受付スタッフや自動入場販売機で充実した対応をされている。また、ボランティアガイドも 4 組（約 100 名）常駐されており、詳細な歴史を学ぶ事が出来る。全長 26.3 メートルの戦艦大和はミュージアム 1 階に展示されているが、3 階まで吹き抜けになっており通路がスロープであった。子供達や車椅子の方も雄大な全体像を様々な角度から楽しめるよう配慮がなされていた。

本市においても、有力な観光資源はあるが広域によりインフラ整備を充実させるには難しく、中途半端になりがちである。それらを踏まえての伝承館建設は、充実した内容を取り入れる事で中心市街地から八代全土を活性化に導く起爆剤になることが期待出来ると思う。

会派 自由民主党 絆 行政視察所見

議員名 【 金子 昌平 】

- ◆視 察 日：平成30年3月29日（木）
- ◆視 察 先：大建工業株式会社（岡山県岡山市）
- ◆調査項目：国内における和紙畳の現状について

国内においては、海外い草の進出や国産い草生産量の減少などにより需要のバランスが崩れている傾向にあった。そのような中、大建工業株式会社のエコ事業部では、地球にも人にもやさしいモノづくり体制を確立させるとして、多種多様なニーズに合わせた和紙畳の製造に取り組んでおられた。主な製造素材は、木質ボード（大建ボード）で日本国内の7割のシェアを持ち、その1/3は畳床に使用され吸音効果に優れている。和紙表畳の特徴は、木質繊維原料の機械すき和紙を、こより状にして通常の織機で製造する。耐久性やカビ・ダニにも強いなど機能の違いはあるが、天然い草ならではの、香りや滑らかさは絶対に真似できない。また、海外の富裕層は、日本伝統に興味を示しており世界に情報発信する事で需要は高まる可能性があると言われる。

本市においても、雑貨の開発や子ども向けのイベントを開催するなど、需要低下に歯止めを掛けるため、新たな挑戦で認知度向上に懸命であるが、地域単体では限界がある。フローリングの床が増え、住まいからめっきりと姿を消している今だからこそ、畳業界が一致団結して国を上げ日本伝統を守る施策を講じる必要があると思う。

会派研修会受講所見

議員名【 石田隆 】

- ◆受講日：平成30年3月29日（木）
- ◆研修先：大建工業株式会社 岡山工場
- ◆研修内容：国内における和紙畳の現状について

本市のイグサ産業は、歴史と伝統を誇る、日本文化の象徴である。しかし近年特に中国産の輸入が顕著となり、今は生産者の産業に与える影響は大きいことは誰もが認識している。特に8520年産のイグサと和紙の原料の量減が出現し、その影響は計り知れない。今日、その生産者である大建工業（株）岡山工場を見学する機会を得た。担当者は大建工業の社長であり、和紙の歴史や現状について詳しく話を聞いた。

製品 その目的については、平織のイグサと和紙とを組み合わせることで、人工的なものと自然との相違はあってもある。

製品としての和紙、平織のイグサと和紙とを組み合わせることで、人工的なものと自然との相違はあってもある。

このように増え、本市の和紙産業が盛況のうちにあり、和紙の生産も増加している。また大建工業（株）は和紙の生産にも力を入れており、企業と専業農家の違いがはっきりしている。

本市のイグサ産業の振興については、行政と一連となり、和紙の生産も増加している。また大建工業（株）は和紙の生産にも力を入れており、企業と専業農家の違いがはっきりしている。

会派研修会受講所見

議員名【 石田 隆 】

◆受講日：平成30年3月30日（金）

◆研修先：大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）

◆研修内容：大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

開館 平成17年4月23日

設計 久米設計 建設 五洋建設

総事業費 約65億円（内訳）建物約40億円 展示物約20億円 館地

館長 戸高一成（呉市参事）

運営 開館より3年間は市営、4年目より指定管理者委託

指定管理者

（株）日本旅行 凸版印刷（株） トーヨーテイズ（株） ビルマツ（株）

の4社、

運営費 5億円～7億円 市の5000万円～7000万円

市内県内人 派遣会社より

Concept 呉の歴史、呉の技術、平和の大切さ

入館者12万人、開館時は40万人と見込んで6つの音響式で

上廻り、160万人を想定した。

展示物12万人は戦艦大和を中心とし、それ以外の

建物の構築は1階は全てが無料、2階は有料、呉市の

伝統芸能伝承館とは少々異質の館ではあるが、呉、入館者

数が非常に多く参考にするべきである。

会派研修会受講所見

議員名【古嶋津義】

- ◆受講日：平成30年3月29日（木）
- ◆研修先：大建工業株式会社、岡山工場
- ◆研修内容：国内における和紙畳の現状について

工場長の事業説明で、岡山工場では住まいづくりに欠かせない床材や壁材、天井材、下地材をはじめ、収納や建築音響製品まで、幅広い住宅用建材を製造している。畳表事業部では、家屋の解体で出る廃材、製材所の剩材、北米産の針葉樹をチップにし、それを機械で和紙（ニリ）に加工、さらに特殊加工後、織機（中村式）で畳表に製織。特徴としては、イ草表に比べ約3倍の耐久性があり、カビの発生もわずかであるとのこと。製織された畳表は、部屋の大きさにあわせてカットできる。カット畳（両面テープで簡単に施工できる）や置き敷きタイプ（フローリングの上に置くだけ）、敷き込みタイプ等がある。また、原紙の色を変えることにより、カラーバリエーションの広がりや、新たな住空間が展開できるように工夫されている。

今後の展望としては、和紙畳は天然のイ草には、香、クッション性、肌ざわり等で勝てないけれど、2020年の東京オリンピック、バリオピックに向け、ホテル業界の要望として、外国人向けの畳の間の需要が見込まれる。現在、中国産のイ草（国内シェア80%）の作付けが著しく減少する中、将来の需要と供給のバランスを考慮すると、日本伝統の畳文化を残すためにも、天然のイ草畳と和紙畳も、共存共栄できるのではないかと考えられる。

会派研修会受講所見

議員名【古嶋津義】

- ◆受講日：平成30年3月30日（金）
- ◆研修先：大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）
- ◆研修内容：大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

呉市海事歴史科学館、愛称「大和ミュージアム」は呉市を設立主体とする博物館で、戦艦「大和」を建造した戦前の技術が戦後の新しい技術と結びつき、世界最大のタンカーを数多く建造するなど、戦後約10年で「世界一の造船国」へ発展する一翼を担い、日本の近代化に大きく貢献。呉の歴史と近代化の石礎となった造船・製鋼を始めとした各種の科学技術のすばらしさ、また日本の歴史と平和の大切さを紹介しています。

年間入館者数は、開館した2005年1年間には約161万4千人が来館。開館から時間が経って、年々漸減しているものの、4年目以降の年間来館者数は80万人代で安定的に推移している。これにより、呉市全体の観光客数も大幅に増加し、年間300万人以上が訪れる観光都市に成長。

課題としては、呉市を訪れた観光客の多くは、広島市に宿泊している人が多いと考えられている。そのため経済効果を市全体に広げる対策が必要と思われる。

尚、「大和ミュージアム」の展示資料は、全長26.3mある10分の1戦艦「大和」をはじめ、大型資料展示室には、零式艦上戦闘機や人間魚雷「回天」などの貴重な実物資料が展示されている。

観光案内については、無償ボランティアガイドとして、100人ぐらいが登録され、3班に班分けされ活動している。